





行事報告書(研修)

報告者:池田 清

行事名	六甲山上自然観察会
実施日時	2022年 9月 8日(木曜日) 10:00~14:40 天候:曇り
場所	六甲ケーブル山上駅(集合)~神戸ゴルフ場沿い~六甲小学校横~記念碑台(昼食・ミニ講座(林さん))→六甲山ホテル迄の周囲コース~ガイドハウス前~六甲ケーブル山上駅
テーマ	六甲山上の植物観察「涼しい山上で自然と触れ合う」
リーダー	藤原 泰子さん(全体リーダー)、高山さん、溝部さん・・・3班に分かれて観察
参加者数	26名
内容 (項目と概要)	<p>7月22日から運行休止になっていた六甲ケーブル再開の日にあたった観察会・・・奇遇。</p> <p>□藤原さんからコース見どころ紹介の後に10:00出発。班別に出発。先ず目に付くのがフサフジウツギのピンクの花。イヌタデ(花)。イノコヅチ(果実)。ツククサ(花)。クズ(花:ファンタグレープの香り)。イタドリ(花)。アカメガシワ(雌花)。ヤブタバコ。鋸歯の先が長いオオシマザクラ。ケヤマハンノキ。マユミ(果実)。アセビは他の樹木を寄せ付けないアレロパシー物質を出しているとのこと。馬の鞭に使用されたというクマヤナギもあった。チジミザサの群生。黒色染料に使われたキブシ。仮軸分枝のミズキ。葉間托葉が特徴のヘクソカズラ。ヤブタバコ。ヒメドコロ。アサギマダラが好むヒヨドリバナ。蠟成分で枝が白色のニガイチゴ。距の先が巻き込まないキツリフネは果実の弾ける様子が面白いとのこと。</p> <p>□ゴルフ場への道~記念碑台:アオキ。羽状複葉似のコバンノキ(単葉)。蠅捕紙に使われたハエドクソウ。茎の上部に葉が無いケヤブハギ。徳川家の紋のモチーフになったフタバアオイ。側脈が縁の谷に来るブナ。火口に使われたキクバヤマボクチ。触れると酷くかぶれるツタウルシ。ツル植物が多種密集した箇所。牛の額に似るミゾソバ。旗弁が紫色のヤブマメ。ワレモコウ(花)。遠景ながらマツムシソウ。アカネ(花)。先祖返りの葉が混在のカイズカイブキ。赤色と白色のゲンノショウコ。枝から直接果実のついたウメモドキ。花の形の面白いホドイモ。花が星形のオオカモメヅル。ミヤマカタバミ(葉)。蕾が玉状のタマアジサイ。キツリフネソウより花期が遅く距の先が巻き込むツリフネソウ。盛り沢山の植物観察を終えて12:00に記念碑台に到着。お互いに間隔開けての昼食。この間、霧雨が少しあったが、直ぐに止んだ。</p> <p>□昼食時のミニ講座は林さんから「六甲山の城跡」について資料も交えて興味深いお話し。新神戸駅からハイキング道40分の所にある滝山城跡、他歴史を有する城が紹介された。</p> <p>□12:50にホテル廻りコースへ出発。</p> <p>ブナ。梨の原種のヤマナシ。マタタビとサルナシの比較。特徴ある葉のバイカツツジ。尖った冬芽のツリバナ。コアジサイの群生。コシアブラ。葉裏の毛が火口になるキクバヤマボクチ。テーブル状に枝を張るタンナサワフタギと短枝の目立つアオハダとの比較。カヤラン(葉)。バイカツツジとウスギヨウラクの対比。階段を下るとツツジ類で最も花期の遅いホツツジの花。葉柄が赤いオトコヨウゾメ。ヤマジノホトギスが左右に点在。もう暫くで熟しそうな実をつけたナツハゼ。コシアブラ。基部の托葉が丸いナンキンナナカマド。ヤブタバコと紛らわしいシュウブンソウ。あまり見られない右上巻きのヤマフジ。鋸歯がヒメコウゾより粗いヤマグワ。ハナイカダ。ハキダメギク。等々をみてガイドハウス前到着。</p> <p>□そのまま六甲山上駅へ向かう。途中マタタビの徳利形の果実があった。</p> <p>14:40過ぎに六甲山上駅に到着、解散。無事に観察会を終えた。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>キツリフネ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ホドイモ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>オオカモメヅル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヤマジノホトギス</p> </div> </div>
まとめ感想	植物の名前だけでなく生活の中での使われ方、名前の由来、同定のポイント等を解説して頂きました。また、この時期でなければ見ることのできない花や果実も多数あり、有意義な一日でした。